

令和 6 年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 3 回相談支援専門員・ 第 2 回子どもサービス連絡会	参加者数	64 人	会場	伊那市まちづくりセンター ふれあいーな 3 階 第 1・2・3 研修室
	日時	令和 6 年 10 月 29 日(火) 10:00~12:00				
主 テ マ	<p>(1) 講義【感覚の統合ってなに?】</p> <p>(2) 課題報告</p> <p>(3) グループワーク</p> <p>(4) その他連絡</p>					
	<p>(1) 講義【感覚の統合ってなに?】</p> <p>講師: 上伊那生協病院 作業療法士</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム症の 70-90%に感覚の問題がある。 ・視覚、触覚、味覚、臭覚、聴覚、前庭感覚、固有受容感覚を脳内で分類・整理・まとめることを『感覚の統合』という。 ・統合機能が正しく働くと適応行動が作り出されるが、働かないと集団生活において問題行動と捉えられてしまう。 ・ひとりの中に感覚過敏と感じにくさは同居し、感覚特性や生活上の問題の現れ方は多種多様である。 <p>◇感覚統合理論を保育・家庭生活に生かすためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動や遊びを通じて、子どもの特性に合わせた感覚刺激を提供する。 ・指導的な遊びではなく、共感し関係性を深め合い、相互関係の中から新たな遊びや学びに繋げていく。 ・子ども自らチャレンジすることで脳の機能が更新されるため、小さい段階付けてチャレンジを手助けしていく。 <p>⇒感覚統合理論を用いることで行動の理解に繋がり、理解が支援に繋がる。</p> <p>(2) 課題報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な連携の流れについて ・サービス等利用計画提出のタイミングについて <p>(3) グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の課題についてグループワークを実施し、各グループで話し合った内容を全体で共有した。 <p>(4) その他連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たべる・はなすの相談室 iroha の紹介 ・進行性筋ジストロフィー当事者の 24 時間ヘルパー利用をした地域生活の実践発表の情報提供 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合の基本知識を得たことで、子どもたちの感覚や行動について理解を深めることができた。 ・合同連絡会を開催したことで、各グループ有意義な意見交換と支援者同士横のつながりを持つ機会となった。 ・支援者間での状況共有や確認等、総合的に統一していくための連携の大切さを再確認した。 					
次 回	<p>相談支援専門員連絡会は 12/5(木)伊那市まちづくりセンターにて就業支援部会と合同開催。 子どもサービス連絡会においては今年度の開催は終了。</p>					